

レッスン7

商 品

しょう ひん



本文

Main Text

最近いろいろな新しい野菜が出ている。戦後、日本人の食生活が洋風になり、肉食が多くなったので、野菜も肉に合うものが必要になり、新しい野菜が次々に開発されている^{*}そうである。

たとえば、サニー・レタスという野菜は、十数年前に、肉料理に合うものとして開発された。カブとかけあわせた新しいハクサイは、やわらかくて、なまで食べることができる。また、ナバナという、菜の花の葉の部分だけを^な使う新しい野菜も最近話題になっている。

新しい野菜の開発には、野菜を作る農家の人たちと、それを買って市場に出す人たちとの協力が^{まようりやく}必要となるが、その協力は容易^{ようい}ではない。市場に出す人は、「味がよいだけでなく、^{*}外観も^{がいかん}き

れいでなければいけない」と言う。同じ大きさの袋に入れるために、たとえばナバナは長さ二十センチ、それより長いものや短いものは商品にならない。

農家の人たちは、市場に出すことができなければ収入にならないので、あらかじめ長さの合わないものを捨てる。しかし、「味に変わりはないのに、なぜ捨てる^すなければいけないのか」という疑問^{ぎもん}を感じるようである。

農家の人たちは、先祖代々の土地で作った野菜に対して、生きものに対する^{*}ような愛情^{あいじょう}を持っているに違いない。しかし現代の農作物は工業品であり商品なのである。こうした変化は、時代の流^りれではあっても、農家の人にとってはさびしいことかもしれない。

レッスン8

登校拒否

とう こう きよ ひ



本文

ほんぶん

Main Text

子どもの登校拒否がよく問題になる。
ふつうの子どもでも学校に行きたくない日はある。しかし登校拒否の場合は、ただ感情的に行きたくないのではなくて、病気に近い状態なのである。カウンセリングが必要であるし、時には入院することもある。

このような子どものカウンセリングをしてきたある心理学者が、新聞に次のようなことを書いていた。登校拒否は低血糖症と関係が深い。低血糖症の人は、つかれやすく、気力がなく、集中することができない。頭痛がする。夜よくねむれない。朝おきられない。感情をおさえる力がないので、すぐこわがったりおこったりする。人に対して暴力を用いる。このような症状は、登校拒否の子どもの様子と同じである。

実際に検査してみても、登校拒否の子どもはほとんどが低血糖症だった。登校拒否の問題は、このような医学的な立場から考えることも必要であろう、という意見であった。

つかれた時あまい物を食べると元気になる。お茶の時間に、親しい人といっしょにあまい物を食べるのはたのしい。ところがそのあまい物を、食事を十分にとらないで食べすぎると、低血糖症になりやすいそうである。

しかし、スーパーに行けばきれいなおかしが並んでいる。テレビでは、人気スターがおいしそうにおかしを食べてみせる。現代の子どもたちは、あまい物の洪水の中で生活している。この洪水に対する強力な対策が必要である。